

四国八十八所参拜（土佐）
 秋のお遍路は高知（土佐）を廻ります。どこから始めても構いませんので新規の方のご参加もお待ちしています。

記

期間 十一月十四日～十六日
 札所 二四番から四〇番
 宿泊 一泊目 金剛頂寺
 二泊目 旅館
 会費 四万六千円（十五名）
 （人数によって減額します）
 （最大定員 二十五名迄）
 一週間前の十一月七日までに
 お申し込みください。前回参加
 の方を優先しますが、今回から
 の方で定員を超えた場合、次回
 の第一番の申込者になります。
 次は来春愛媛（伊予）を廻り
 ます。日程は四月十六日から十
 八日を予定しています。詳しく
 は一月号でご案内いたします。

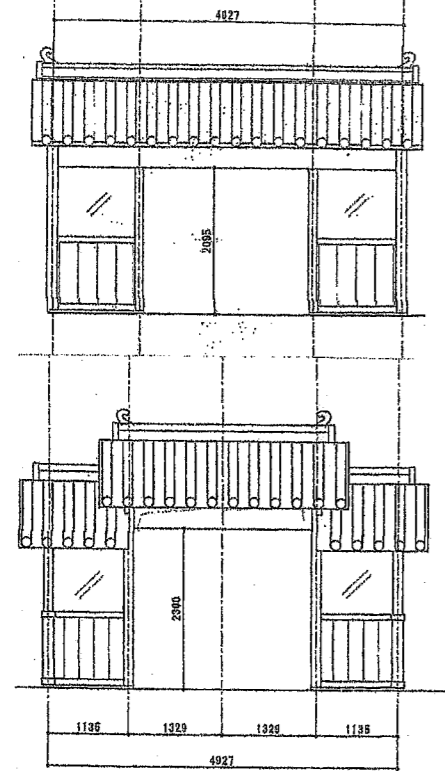
真言宗の基礎知識（その三十五）
 （弘法大師）

弘法大師空海と伝教大師最澄の間には種々の交友
 がありました。わが国初めての灌頂という儀式には
 受者として最澄上人も参加をされており、お経の借
 用なども頻繁に行われました。同じ時代に教えを中
 国で学んだお二人だからこそ信頼関係も高かった
 ように思います。「空海の業績を一番理解していた
 のは最澄でした。」と島田裕巳氏の前出の著書に書
 かれています。
 しかし、お二人の密教に対する考え方の違いが次
 第に出てまいります。弘法大師は密教は書面だけで
 はなく修行を通しての教えの伝授が必要であるとき
 れましたが、伝教大師は座禅や念仏と同じ方法での
 伝授を考えていらつしやいました。また、最澄上人
 の第一番の弟子と言われていた泰範（たいはん）が
 弘法大師に教えを乞い、そのまま比叡山に戻らなく
 なってしまったことも大きく影響したはずで、伝教
 大師と弘法大師のお二人はお互いを認めながらも、
 ついにそれぞれ別の道を歩み始めます。

毎月 護摩祈願を始めます
 来年一月より星祭りで焚（た）
 いている護摩祈願法要を毎月実施
 いたします。上之坊のご本尊薬師
 如来は現世に生きる私たちのご利
 益（りやく）を実現していただく
 仏様で、上之坊も昔から供養と祈
 願を行う寺院でした。今回、毎月
 下旬の指定曜日（未定ですが土曜
 日か日曜日）にご本尊薬師如来の
 護摩を焚こうと思います。特に来
 年厄年の方（大厄は男性昭和五十
 三年、女性昭和六十二年、男女と
 もに昭和三十四年生まれ）で誕生
 月が一月の方は是非ご参拝をお考
 えください。少人数で念をこめて
 実施いたします。詳しくは次号で
 のご案内をお待ちください。

上之坊だより

平成30年10月26日
 第81号
 福山市大門町大門325
 電話 (084) 941-1031
 fax (084) 941-1168



第1案
 (1100万円)

第2案
 (880万円)

こう ぼう だい し せい ご しょう
 弘 法 大 師 聖 語 抄

ぶつにち かげしゅじょう しんすい げん
 佛日の影衆生の心水に現ずるを加と曰い、
 ぎょうじゃしんすい よ ぶつにち かん じ なづ
 行者の心水能く佛日を感じずるを持と名く

お大師さまのお書きになった
 即身成仏義の中の文章である。
 「加持」という言葉があるが
 「加」は仏様が本来お持ちの力
 を私達の心に影現（ようげん）
 することを言い、光が輝けばそ
 れが水に映るように仏様の慈悲
 の力が我々に映るさまを表す。
 「持」は我々のほうがそれを
 維持することが出来ればおかけ
 をいただき、心身にご利益（り
 やく）が生じていくのである。
 波静かな池には周囲の風景や
 青空が映るように、心という池
 が穏やかに水を満たせば仏様の
 光が輝く。しかし雲がかかれば
 輝きは隠れ、波風が激しければ
 映す形は歪む。日照りが続けば
 池が枯れて何も映らない。
 すべては私達の心に問題があ
 るのであって仏様のせいではな
 い。私達が自分の心を知り、智
 恵を持ち続けられれば、今より良い
 未来が訪れると思う。

土砂加持法要のご案内

秋も少しづつ深まつてまいりました。十一月十日（土曜日）午後一時半より、近隣の住侶のご助法を仰ぎ、恒例の土砂加持法要を開筵いたします。当日は午後一時半より御詠歌と法話、二時より「とうば供養」と引き続き土砂加持のお勤めを四時前まで予定しております。

なお、法要で「板とうば」を造りお墓に建てたい方はお申し込みください。供養料を含めて三千元となります。

また、お墓に塔婆を建てにくい方は紙の塔婆をつくり供養を行います。供養料は千五百円です。

加持したお土砂をご希望の方は法要終了後にお分け致しますのでお残り願います。板とうば申込みの方には無料でお分け致します。またお土砂のみご希望の方には三百円のお賽銭をご用意下さい。

板とうばや供養のお申込みは別紙にてお申込み下さい。当日参加できない場合は後日の受け取りでも結構です。

なお、明年の年忌名簿については、本堂正面に土砂加持の日より掲示をいたします。どうぞ、先祖供養をご希望の方はお参りいただきませうようにご案内申し上げます。

生前戒名について

生きているうちに戒名をつけたいという方がいらつしやいます。多い例としてはご夫婦で一方が亡くなられた時に自分もつけようと申し込まれる場合ですが、主な理由は後の人に迷惑をかけたくないからであると言われます。

戒名は亡くなった時の名前でもありますが、本来は出家する（僧侶になる）時の名前です。いまでも僧侶になる方は裁判所に申請をして今までの名前を消去して僧名への改名の手続きをされています。

もちろん一般の場合はそのまでの必要はありませんが、その覚悟は大事かもしれません。あえて戒名はつけず子孫の方に戒名がなぜ必要かをお話しいただき、戒名を子がつけるのも親孝行の一つです。一方戒名をつけてこれから修行を始める場合もあるかもしれません。

戒名は二文字の漢字が基本で、生前におつけする場合はこの二文字だけ授与する事も出来ます。戒名料は生前のお申し込みがある場合六文字の信士信女までは無料です。お寺では戒名を生前に授与した方にご案内できる修行も考えております。詳しくはお寺へご相談下さい。

上之坊で総代会開催（整備事業等のご報告）

九月二十四日午後二時から総代会が開催されました。まず、本堂の改修作業場所や解体された横門跡などを現場で確認しました。その後広間にて協議に入り、横門の再建については設計を依頼した大森工務店から二つの案が示され（本紙のページの図）今までのと同じ形の第一案では約一千百万円、第二案では柱が短くて済むので約八百八十万円の見積りとなりました。総代会では概ね第二案での施工が有力でしたが、もう少し安価な門に出来ないかとの意見があり、次回の総代会で結論を出すことになりました。

この夏の台風等の災害で大工さんなどが繁忙となりユギ塔などの工事が止まっています。材料の搬入が先日行われ

ましたが、工事再開は土砂加持以降となりそうです。作業ボランテアもお願いたしたいのですが年末か年明けになりそうです。日程は決まっておりますが、土曜または日曜日を考えています。

納骨堂（墓）等について前号で記載したところ、ご要望や問い合わせが数件あり、関心が強い事が分かりました。今回の総代会でお墓の将来について議論を行い、新しい形式でお墓の代りになるものが必要になると考え、建設を検討することになりました。以前上之坊は位牌堂を増設しましたが、永代供養でお預かりする位牌とお骨の供養をする為のお堂でした。いわば仏壇の代わりになる施設ですが、位牌堂を建てた後、いづ

れ納骨堂（墓）を建立し骨壺を移す事になっていました。今回の納骨堂（墓）は、お墓を維持する後継者がいない場合などを想定して、お墓の代わりとして、お骨を骨壺にいたたまま、一つずつ安置をしてのお預かりとなります。対象は上之坊の檀信徒で、上之坊の過去帳に記載されている方のみ、三十三回忌または五十回忌までは納骨墓でお預かりをし、その後は骨壺から出して合祀で埋葬をいたします。場所については本堂の横か、鐘樓門の横などを今後検討してまいります。

来年一月から、厄除けなどの祈願のために毎月一回護摩（ごま）を焚く日を定めて行事化することを総代会に提案いたしました。これは星祭で

の護摩が好評ですが、人数が多いため少人数（十人程度）でしっかりとご祈念ができるよう考えています。総代の方なども交代でお手伝いしていただけると喜んでおります。

日程など詳細は次回の総代会で決定しますが、月の終りの週で土曜または日曜日の実施を考えております。

お寺の前の土地の活用方法について結論が出ず、当面は現状のままとし、墓地の造成は必要ないとのご意見が多くありました。

羽合温泉の当選された方へ

星祭りで一等に当選された残り一組のお名前が判明しております。ご存知の方はお申し出てください。ご連絡をよろしく願います。